

討議年月日	2003年3月12日 (水)
コーディネーター	加藤 好郎氏 (慶應義塾大学三田メディアセンター事務長)
テーマ	日曜開館と開館時間延長について
討議内容	<p><b>1.はじめに</b> 慶應義塾大学三田メディアセンター事務長加藤好郎氏作成の「日曜開館と開館時間延長について」の例題を基に4グループに分かれて討論を行った。</p> <p><b>2.設定</b> 下記条件で日曜開館と開館時間延長を館長から検討するように指示された。あなたが課長の立場だったら、どうしますか？</p> <p>日暮里大学図書館 (地上3階・地下2階、蔵書数約100万冊) ・文学部、法学部、経済学部 (4800名)・大学院 (300名)・教員 (150名)・職員 (300名) ・図書館予算 (3億円)= 図書館図書予算 (1億5000万円)+ 研究室図書予算 (1億5000万円) ・図書館員 専任15名、嘱託5名、業務委託30名 [内訳]事務長1名、閲覧書庫管理20名 (うち専任3名 課長1名、業務委託17名)、レファレンス専任4名、ILL専任2名、選書専任3名、テクニカル20名 (うち専任2名 課長1名、嘱託5名、業務委託13名)</p> <p>開館時間 月～金 9:00～21:00 (18:00～21:00閲覧サービスのみ) 土 9:00～18:00 (15:00～18:00閲覧サービスのみ) ・専任職員勤務時間 8:30～16:30 (レファレンス担当者時差出勤で対応) 見積書 開館時間延長=1時間320万円 (人件費200万円、光熱費) 日曜開館=5時間1500万円 (人件費1000万円、光熱費)1100万円 (システム保守料、含人件費)</p> <p><b>3.各グループの発表</b> *各グループ設定の開館時間には、閲覧サービスのみとする時間を含む。</p> <p>[Aグループ] 日曜開館 開館時間延長ともに実施 月～土 9:00～22:00 日 12:00～17:00 (試験期のみ実施) &lt;算出根拠&gt; [専任1名 月～土12:00～20:00時差出勤] [委託4名 月～土14:00～22:00勤務] [専任4名 日 ローテーション出勤]で対応する。光熱費は経常費から支出。人件費の増加なし。</p> <p>[Bグループ] 日曜開館 開館時間延長ともに実施 月～金 9:00～22:00 土 9:00～19:00 日 11:00～19:00 (1月のみ) &lt;算出根拠&gt; 職員の帰宅時間を考え、無理のない範囲で延長した。また他大学の状況をみても22:00が多いため。土 [通常出勤者 8:30～14:30 時差出勤者 14:00～19:00] 日 [専任職員のみで対応] 光熱費は経常費から支出。人件費の増加なし。</p> <p>[Cグループ] 開館時間延長のみ 月～金 9:00～22:00 土 9:00～19:00 &lt;算出根拠&gt; 専任職員1名を時差出勤にし、業務委託4名とともに対応する。光熱費は、追加予算を申請するか経常費で支出する。日曜開館は次年度以降検討する。</p> <p>[Dグループ] 開館時間延長のみ (次年度以降日曜開館実施) 月～土 9:00～22:00 日 10:30～17:30 (次年度以降) &lt;算出根拠&gt; 業務委託の時間を1時間遅らせることにより対応。日曜開館は次年度以降、業務委託4名で対応する。</p>
結論	パブリック・サービス研究分科会としては、Aグループの案を採用し、開館時間の延長・日曜開館ともに実施する。日曜開館については貸出はなしとして、館内利用のみのサービスを行う。次年度に向け利用統計をとり、利用のニーズがあるようなら順次サービスを拡大していく。
感想	身近なテーマ設定でのケーススタディだったので、大変有意義だった。責任のある立場である課長として考えるという設定だったので、サービス拡大の要求と予算と人員を削減されている図書館の現状とののはざまでもとも考えさせられた。
配付物	「日曜開館と開館時間延長について」